

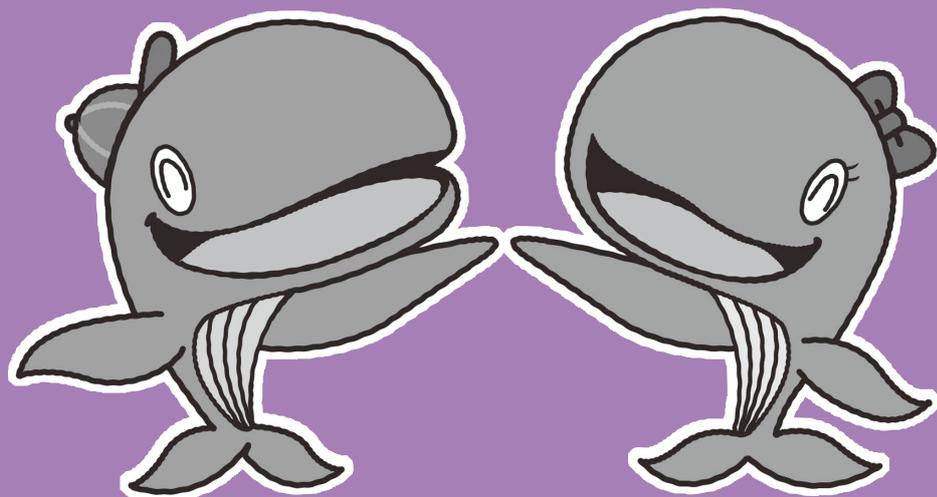
はーい！

男と女が共に歩むための情報誌

Hi,あきしま

vol.42

2016.10



特集

■多文化共生における学校教育の取組

市内小学校での異文化交流・人権への取組について取材しました

- 「専業主夫」として生きる
- 昭島市男女共同参画プラン
平成26年度評価報告書（概要）
- BOOK GUIDE
- INFORMATION



濱野 裕美 (はまのひろみ)
昭島市立武蔵野小学校校長
(東京都公立小学校女性校長会会長)

特集 多文化共生における 学校教育の取組

現在、昭島には様々な民族・宗教・文化的背景を持った外国人が暮らしており、平成28年1月現在で、その数は2,327人(人口の約2.1%)となっています。昭島に暮らす全ての外国人が日本人と共に参加・活躍できる多文化共生社会の構築が求められており、その教育現場での取組について武蔵野小学校校長 濱野裕美先生にお話を伺いました。

I 文化・言葉の違いを越えて 多文化共生の推進

我が国では、平成19年に「男女共同参画基本法」が施行され、昭島市においても、第3期目となる「昭島市男女共同参画プラン」を平成23年度に策定し、男女共同参画社会の実現に向けて、その取組を推進しています。

今回の特集では、主要施策の1つである「多文化共生社会での男女共同参画の推進」と「人権意識の育成」について、教育現場ではどのような取組がなされているのか、市立武蔵野小学校を訪問し、濱野校長先生からお話を伺いました。

◆外国人住民の増加と教育現場での国際化・多文化共生への取組

国際化、多文化共生が進む昨今にあつて、昭島市でも外国人居住者が増加傾向にあります。これまでは、中国、韓国、アメリカからの居住者が多くを占めていましたが、ここ数年来、様々な国からの転入者が増えていきます。文化の違いから様々なトラブルも生じていますが、それを乗り越えて快適な生活を送れるような社会の構築が求められています。

外国人の子供たちと日本人の子供たちはどんな学校生活を送っているのか。

そんな疑問が生じて、武蔵野小学校へ訪問し、濱野校長先生の案内で授業中の教室を参観してきました。

武蔵野小学校の所在する昭島市武蔵野は工業用地で海外からの住民も多く生活をしている地域です。



学校長と子供たち

市立武蔵野小学校には2年前から外国籍の児童が在籍しています。また、体験学習ということでアメリカ在住の児童が夏休みを利用して武蔵野小学校で学ぶという交流も2年前から行われ

ています。

◆文化、言葉の違いを乗り越えて

子供たちが相互に理解しあえるためには言葉の違いを乗り越えなければなりません。以前、中国からの転入で、全く日本語がわからない児童がいたそうです。そのお子さんは、みんなが自分の悪口を言っているのではないかと不安になって、なかなかクラスに溶け込めず、そして、その不安から暴れてしまうようなこともありました。

◆積極的な言葉の支援活動

そのお子さんに中国語が分かる支援員をつけ、日本語を教えるようになり、日本語が理解できるようにな



施設見学の様子

◆グループリーダーを中心に活発な議論

子供たちは熱心に聴き入り、そのあとモハメド・アリがどのような差別を



先生自作の教材でモハメド・アリの差別をなくす活動を一生懸命に説明

受けたのか、チャンピオンベルトを川に捨てたのはなぜか、どんな気持ちだったのかなど、問題の本質について活発な意見が取り交わされました。特に、子供たちを小グループに分け、グループリーダーを中心に活発な議論が行われているのが印象的でした。「今日の授業で、何が心に残りましたか」という先生の質問に「差別のない国が大事」と答えた子どもの言葉が私の心に残りました。

○子供たちの豊かな心の育成を心掛けてきました。

また、「あいさつをしよう」と徹底して指導にあたってきました。そのおかげで校内では挨拶が飛び交い、明るい雰囲気になっています。

月曜日の全校朝会では、ご自分の失敗談なども子供たちにお話しします。これを聞いた子供たちは、「失敗してもいいからやってみる事が大事なんだ。」と、勇気やる気、自信を持っていろいろなことに挑戦することができるようではないでしょうか。

そして最後に、子育て中のお母さん・お父さんへのアドバイスです。「子育ては大変です。悩みを抱えず、ぜひ相談してください。お子さんのよりよい成長と一緒に考えましょう。」

◆◆◆◆◆
校舎の前のグラウンドは一面が緑色の芝生でした。綺麗に整備された芝生で子供たちが跳ね、飛び回る姿が目に見えられました。学校教育を通して子供たちの道徳観

がはぐくまれ、相互理解と共同の精神をもち、世界に羽ばたく子供が現れるのもそう遠くはなさそうです。

II 事例を教材に 「道徳」への理解

◆差別に挑む ～モハメド・アリの闘い～

取材当日は5年生の道徳教育の参観日で、道徳の授業を教室の中で参観することができました。今回は若い男性教員が元ヘビー級世界チャンピオンであったモハメド・アリが、自分が受けた差別に抗議し、チャンピオンベルトを川に捨てた体験について、自作の資料で問題の背景を説明していました。



グループごとに「問題の本質は？」みんなで考える



廊下には「人権掲示板」
「知ろう 学ぼう 考えよう」

◆◆◆◆◆
武蔵野小学校に赴任して2年目の濱野裕美校長は、
○一人ひとりの感性を大事にした教育



「専業主夫」として生きる

小川 真一 さん (昭島市中神町)

マイルールは、「子どもと一緒にできる活動しかない」。なのに、わずか3ヶ月で20名近くのパパとつながる子育て中のパパを中心としたネットワーク「昭島パパネット」を立ち上げ、「ぱぱとこひろば」や「ことこひろば」などを開催。こども食堂「あきしまこどもクッキング」の代表も務めている。

昭島に「専業主夫」を名乗る男性がいると聞いたら、驚かれる人も多いのではないのでしょうか。最近では、家事・育児に積極的な男性が増えたとはいえ、こっちはっきり名乗っている人とはどんな人なのでしょう。ペーパーを押しながら現れた小川さんの第一印象は、今どきの優しそうなお父さん。

「専業主夫」を選んだ理由

小川●結婚1年目、妻が2年ごとに転勤をする仕事に就くことになり、今後の家族の生活を考える上で、別々に暮らして互いの仕事をするということは選択肢がなく、家族と一緒に生活をしていくためには、妻と私のどちらかが職業を変える選択をしなければならぬと考えました。そして、妻と私どちらが仕事に向いているか、家庭に入るとしたときにどちらが家事と家庭作業に向いているかという適性から決めました。

私は、この家族としての選択について、「将来に対する唯ほんやりとした期待」しかなかったです。私が専業主夫をしていられるのは、なにも私が特別なことをしているわけではなく、過去の女性たちが大変な苦勞をして、社会的地位を獲得するともに新しい生活

スタイルを確立してきたおかげであり、女性の地位向上により、男性の選択肢も増えたからだと考えています。今後未来に向かつて、男女同権、性差にとらわれない社会・家族生活のあり方が形作られていくと思いますが、今の時代ならではの過渡期的な「専業主夫」という役割を担えることが楽しみでした。

それに、女性であるがゆえに妻の仕事が制限されることは、社会にとっても家族にとっても損失だと思っていたので、妻が制限なく仕事ができるようサポートしたいという気持ちも単純にありました。

結婚してからこれまで、関東、名古屋、福岡県、愛媛県など7回の転



勤・引越しを繰り返し、平成27年4月に昭島に移り住んでこられた小川さん。翌月に第一子となる遊くんが誕生しました。昭島で展開されている活動の開始は、同年11月からとのこと。きっかけは何だったのでしょうか。

人と人をつなげてくれた人

小川●昭島に来てから、「私は子育て中の父親で、パパのネットワークを作りたい」ということをいろいろの人に話していたのですが、なかなか最初は活動につながりませんでした。

ある時、市の職員の方から、「子育てひろばの○○さん、公民館の○○さんに小川さんのことを話しておきました。訪ねてみてください。応援しています。」という内容の、とても丁寧なお手紙をいただいたのです。この手紙が私を助けてくれました。

何が助かったかと言うと、行政のシステムではなく、人となげてくれたこと。それによって、一気に世界が広がったのです。

この手紙がなかったら、昭島で活動をやっていたかもしれないと思います。

今では昭島以外にも活動が広がり、大変お忙しい小川さん。普段の過ごし方を教えていただきました。

専業主夫のマイルール

小川●「子どもと一緒にできる活動しかない」「特別な資格がないとできないことは、しない」と決めていきます。

人は気持ちさえあれば、何の資格がなくても、子どもがいてもできることがある、その中でできる活動をする、ということが一番大切にしています。

一日の流れは、7時頃に起きて、8時半頃に妻が出勤、息子の食事がすむと、家事、涼しいうちに公園で遊び、お昼を食べて、息子がお昼寝に入ったら、メールなど作業を片付けて…、就寝はこのころ午前1時頃という感じでしょうか。

休日も、妻と子どもを置いて完全フリーベートで出かけることはあまりありません。子どもが生まれ、初めての子育てでしたが、今までどこに住んでいても、それぞれの地域で子育て関係の団体に所属していたこともあり、わからないことは誰かに聞けば教えてくれます。

また、これまでの活動を通して、子どもに関する日常的なトラブルなどを約10年間ケーススタディのように見てきたので、初めて子どもを持つお母さんたちより練習期間があったことも、すぐくラッキーだったのかもしれない。

大切なのは地域の想い

これまで住んでおられた場所でも様々な活動を展開されていたそうですが、今後それらの活動はどうつながっていくのでしょうか？

小川●転勤して最初の3か月間、地域を歩き回って、いろいろな人と話をするなどして、その地域のニーズを拾うことをします。その地域にないものをつくらうと思っています。

次の3か月間で活動を立ち上げ、1年間活動し、引き継いでいくわけですが、私がつくったものが残るかどうかはシステムの問題ではなく、そこに残った人たちが、人と人とのつながりをどう残していくかという問題です。



私は何かを地域にもたらそうと思って地域に入ってきているわけではなくて、ふらりと現れて、あばよと去っていく寛さんのようなものです。でも、地域の人たちは地域に残るわけだから、地域の人にとって、その活動が必要であれば残るでしょうし、そうであれば消えていくのでしよう。

寛さんの想いが大事なのではなくて、地域の人たちの想いが大事なので、私が何かを残すというよりは、地域の人たちが考えてつくっていくのだと思います。

活動は、「活動」と「学び」の両輪があって、動くものです。「学び」というのは、お互いの想いを伝え合い、お互いの想いがぶつかり合ったときに、どうそれを乗り越えればよいかをみんなで考え、それを感じることであり、その「学び」の機会を、活動の回数と同じだけもつことが重要だと思います。

小川さんのお話を伺いながら、性別、世代、障害などを超えて、誰もが互いを尊重し合いながら、心豊かに生きていける世の中に向けて、大切なヒントを教わったように思いました。

最後に、小川さんが書かれた「こんにちは、昭島パパネットです」というサイトのメッセージの一部をご紹介します。

「子育てに関わることは、人間と



日本中どこに行っても地域にパパたちが集つ場があり、地域のごどもたちに笑顔で寄り添うあり方を、お互いに、アイデアを出し合っ楽しんで暮らしたい。

昭島がより豊かになりますように。さあ始めましょう。

項目ごとの評価結果

目標	主要施策	担当課 評価	委員会 評価	評価のコメント
目標Ⅰ 人権の尊重と男女平等を育む社会づくり	人権意識の育成	72	優	意識育成のための講演会、各種講座などの取組みは評価できる。
	多文化共生社会の場での男女共同参画の推進	44	可	変わり映えがなく、昨年からの推進がみられない。
	男女共同参画に関する啓発	77	優	講座などの内容は良いが知名度が低く更なる周知が必要である。
	メディアにおける男女平等意識の形成	48	良	具体的なアイデアがない。メディア・リテラシーの学習会については分かりやすい説明の工夫が必要。
	幼稚園・保育園における男女平等教育・学習の推進	44	良	園児へというより、保育士、保護者への男女平等意識教育が必要である。
	学校教育の場における男女平等教育・学習の推進	66	優	教職員も積極的に取り組んでいるが改善の余地がある。
	家庭・地域・社会における男女平等教育・学習の推進	85	優	講座・セミナーへの男性参加を増やすための工夫が必要。
目標Ⅱ 配偶者等からの暴力の防止及び被害者支援	配偶者等からの暴力防止のための意識啓発・情報提供	66	良	担当課でできることを制度化する段階にあり、今後の取組に期待。
	セクシュアル・ハラスメント防止の取り組み	53	良	具体的な取組みがみられない。パンフレットの配布だけに頼らない施策が必要。
	配偶者等からの暴力などによる被害者の安全確保と自立支援	81	良	実績が示されてなく評価が難しいが、関係機関と連携は図られている。
	関係機関との連携と相談体制の充実	47	良	特に精神的被害などに対する具体的な救済施策も考慮する必要がある。
	互いの性の尊重	53	良	年齢に応じた学習機会は学校以外の対象があってもよい。
	性差や年代に応じた心と身体の健康支援	91	優	健康課の取組は内容も良く実績もある。
目標Ⅲ 働く場における男女共同参画の推進とワーク・ライフ・バランスの推進	働く場における男女共同参画	27	可	難テーマだが、取り組みが進められていない印象である。事業所への働きかけも必要。
	ワーク・ライフ・バランスを実現するための支援	40	良	優良企業の紹介など、市でもできることがあるはずで改善の余地がある。
	女性の就業支援	67	優	自営業家庭における工夫等の事例を紹介すれば効果的である。
	子育て・家事支援	86	優	よく取組んでいるが、他市と比較し、効果的な取組が望まれる。
	高齢者・障害者等の介護・介助を担う男女への支援	61	良	この分野に力を入れ、人口減に備える必要がある。
目標Ⅳ 男女共同参画の総合的推進	政策・方針決定参画の拡大	87	優	審議会の女性委員比率を上げるために女性の公募委員を増やす等の対応も必要。
	人材育成と活用の促進	11	可	実質的に何も取組まれていない印象である。「何をどうするか」の構想が必要。
	地域活動への男女共同参画	68	良	女性リーダーの存在が当たり前であるような雰囲気づくりを期待する。
	国際的取り組みとの協調	50	良	難テーマだが、オリンピック関連でのイベント開催に併せて積極的に向き合ってほしい。
	市民との協働による計画の推進	89	優	推進委員会の充実、情報誌「Hi,あきしま」の紙面の工夫など、一定の推進が図られている。
	庁内推進体制の充実及び関係機関との連携	77	良	積極的に取組まれているという印象はないので男性職員の育児介護休暇取得促進等を望む。

* 担当課評価：100点満点での点数 委員会評価：「秀・優・良・可・不可」の5段階

昭島市男女共同参画プラン 平成26年度評価報告書（概要）

昭島市では男女共同参画社会の実現のためにプランを策定し、様々な施策に取り組んでいます。施策の推進状況を、市民公募委員を含めた8名の委員からなる推進委員会で評価しています。平成27年度に同委員会から評価結果が報告されましたので、その概要をお知らせします。

1 全体的な評価

同プランの推進は、市の事業としてこれまで一定の実績が積み重ねられていることもあり、全体として概ね及第点に達していると認められます。

評価基準項目を昨年度と比較すると、「優：9」（昨年と同じ）、「良：12」（1増）、「可：3」（1減）となっていますが、他方いくつかの事業では課題も見受けられます。

2 今後重点的に取り組むべき課題

(1) ワーク・ライフ・バランスの取組み強化

特に、事業所への支援、啓発の取組みが不十分で、施策の狙いが達成されていないとの評価となりました。これらの事業は、男女共同参画社会の実現に直結する市の重要課題でもあります。

一人ひとりの市民が、社会の一員として人間らしく生きることを可能にするとともに、女性の社会参加も促進します。

啓発の第一歩として、優れた取組みを行っている企業の事例紹介や講演会による働きかけなど、積極的な取組みを期待します。

(2) 男女共同参画センターの整備

同センターは平成31年度に開設が予定されています。

これが整備されることにより、現在行われている「女性悩みごと相談」などの相談機能や情報提供機能などの充実が図られるほか、活動や交流の場としても利用範囲が拡充するなど、男女共同参画推進事業の取組みが大きく前進することを期待します。

(3) 市民意識調査の結果の活用

事業計画の中間年（平成27年度）に「市民意識調査」が実施され、施策の推進状況や認知状況が調査されました。この結果、「11の目標指標」のうち、目標に達していない施策については、今後、推進向上のため更なる取組みが必要です。

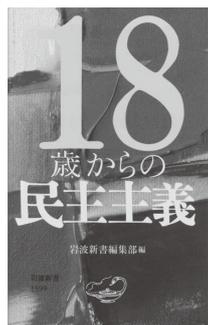
また、市民の認知度が低い事業「情報誌（28%）」「講演会・セミナー（8%）」「参画ルーム・おあしす（6%）」などについては、今後一層の広報活動強化、意識啓発等について推進を期待します。

(4) 評価方法の見直し

担当課の主要事業の記載は出来る限り数値目標に対する進捗の数値化、前年実績の記載など分かりやすい記載に努めていただくよう期待します。

また、当委員会の評価基準も「秀・優・良・可・不可」となっていますが、基準があいまいで分かりにくいことから、見直す必要があると考えます。

✧ 今だからこそ、民主主義を捉え直す！



『18歳からの民主主義』

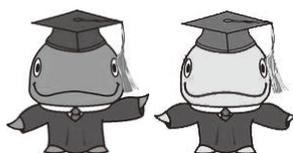
岩波新書編集部
 岩波書店 2016年4月

本書は、「自分の意思を社会に生かすためのガイドブック」として、3部で構成されている。

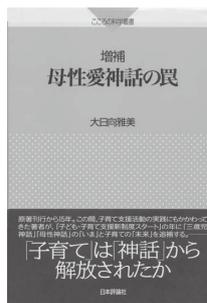
「Ⅰ 民主主義のキホン」、「Ⅱ 選挙。ここがポイント！」では、様々な分野の専門家が現在の社会情勢や問題について、独自の視点や切り口で論じている。「Ⅲ 立ち上がる民主主義—18歳も、101歳も—」では、多様な世代・性別・ジャンルの執筆者がそれぞれの思う「民主主義」への想いや人としての生き方などについて、自身のエピソードを交え、自由に綴っている。

執筆者の中には、今回初めて選挙権を持つ10代の若者が数人いることも大変興味深い。

本書の展開は、ディスカッションを彷彿とさせる。ディスカッションに読者を巻き込み、改めて民主主義とは、そして社会で生きるとは何かを問いかけてくる一冊である。



✧ 母性愛の光と影 「母性愛」って何だろう



『増補 母性愛神話の罫』

大日向 雅美 著
 日本評論社 2015年6月

著者は子育て支援活動の実践にかかわってきた中で、母親一人の孤独な子育て（孤育て）から、地域の皆で支える子育てを提唱している。老若男女共同で、地域の育児力の向上を目指すという理念の下で。それには女性を縛りつけてきた「母性愛神話」から女性が解放され、母として生きるだけでなく、社会参加の道が開かれるべきであるという。これからの子育ては、「共働き」を基本とした父親も参加の「共育て」等、多くの新しいライフスタイルの提案に傾くことが多い。

✧ その他、今年度購入した本

- ◆ 『下層化する女性たち』
 小杉礼子・宮本みち子 編著 勁草書房 2015年8月
- ◆ 『老妻だって介護はつらいよ』
 沖藤典子 著 岩波書店 2015年8月
- ◆ 『新しい幸福論』
 橘木俊詔 著 岩波書店 2016年5月

INFORMATION

～男女共同参画講演会～

「上司が変われば職場が変わる ～イクボスのすすめ～」

講師：NPO法人ファザーリング・ジャパン代表理事
 安藤 哲也さん
 日時：平成28年10月22日(土)午後1時30分～3時30分
 場所：昭島市役所 市民ホール
 定員：100名(申込順) 保育あり(2歳以上の未就学児5人、
 申込順、10/14申込期限)
 申込：企画部企画政策課 TEL 042-544-5111 (内線 2373)
 FAX 042-546-5496
 9/26 (月) より受付

～男女共同参画DV防止セミナー～

「ココロとカラダを自分で守る」

講師：フェミニストセラピー“なかま” カウンセラー
 花崎 晶さん
 日時：平成28年11月17日(木)午前10時30分～12時30分
 場所：昭島市保健福祉センター(あいぼっく) 健康教育運動指導室
 定員：30名(申込順) 保育あり(2歳以上の未就学児5人、
 申込順、11/10申込期限)
 申込：企画部企画政策課 TEL 042-544-5111 (内線 2373)
 FAX 042-546-5496
 10/17 (月) より受付

～女性悩みごと相談 無料～

家族関係やからだ、心の悩みなどはありませんか？女性フェミニストカウンセラーが相談に応じます。お気軽にご利用ください。
 相談日：毎週水曜日 午後1時～4時(祝日・年末年始は除く) 相談時間：一人50分 場所：市役所3階 小応接室
 相談方法：電話または面接 利用方法：予約制 TEL 042-544-5130(直通) 042-544-5111(内線2373)

☆「Hi, あきしま」についてのご意見・ご感想などは、下記までお寄せください。

- * 郵送 = 〒196-8511 昭島市田中町1-17-1
 昭島市企画部企画政策課 男女共同参画担当
- * ホームページ = 昭島市トップページ「市民の声」→「ご質問・お問い合わせ」を選択し、送信してください。